

# **2019年3月期第1四半期決算概要**

---

## **(2018年度)**

2018年7月27日  
株式会社リコー

- 2019年3月期第1四半期決算概要についてご説明いたします。

本資料に記載されている、リコー（以下、当社）現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

従って、実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これら業績見通しにのみ全面的に依拠なさないようお願い致します。

実際の業績に影響を与える重要な要素には、a) 当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、b) 為替レートの変動、c) 当社の事業領域に関連して発生する急速な技術革新、d) 激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品・サービスを当社が設計・開発・生産し続ける能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。（参照：「事業等のリスク」<http://jp.ricoh.com/IR/risk.html>）

本資料に他の会社・機関等の名称が掲載されている場合といえども、これらの会社・機関等の利用を当社が推奨するものではありません。

本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。  
投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願い致します。

- 売上高は前年同期比ほぼ横バイながら営業増益
- オフィスサービスの利益拡大と経費削減により増益
- 日本、新興国で増収。米・欧は減収ながら計画を達成
- 構造改革施策は計画通り進捗



**全体としてほぼ計画通りの着地  
(営業利益進捗率：約25%)**

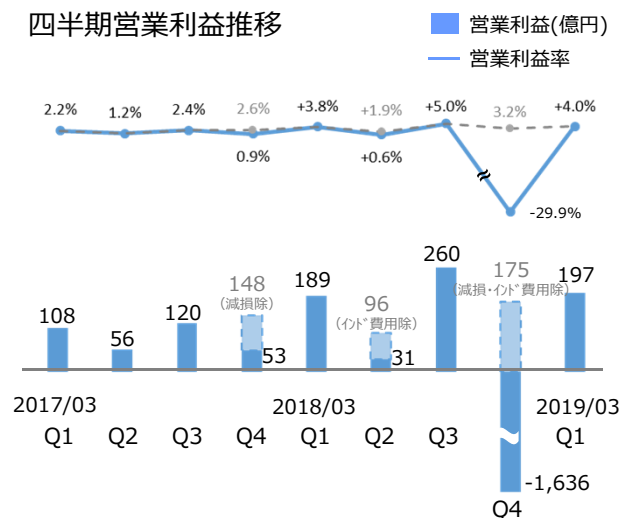
- 概要としては、社内計画よりもオーバーして着地することができました。  
Q1は季節性として通常年間の1/4はないが、今回25%の進捗率となりました。
- 売上についてはほぼ横ばいでしたが、営業利益は増益となりました。
- オフィスプリンティングが減収するも、オフィスサービスが大幅に伸長し、インドを除く全地域で増収増益だった点が業績に寄与をしました。
- 地域としては、日本が大幅に増収増益、また新興国も伸びました。  
欧米は減収でしたが、社内の計画はオーバーしております。
- また、今年度の構造改革の施策は予定どおり進捗しています。

# 2019年3月期 第1四半期決算 <主要指標>

	FY19/03 Q1実績	前年比
売上高	4,909億円	△0.3%
営業利益	197億円	+4.1%
営業利益率	4.0%	+0.2pt
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	92億円	△14.0%
EPS	12.81円	△2.08円
FCEF *	721億円	+374億円
研究開発投資	255億円	+0億円
設備投資 (有形固定資産)	144億円	+8億円
減価償却費 (有形固定資産)	176億円	+6億円
平均為替 レート 1USドル 1ユーロ	109.14円 130.14円	△2.02円 +8.03円

\* FCEF (Free Cash flow Excluding Finance business) :  
ファイナンス事業を除くフリーキャッシュフロー

四半期営業利益推移



July 27, 2018

(C)2018 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

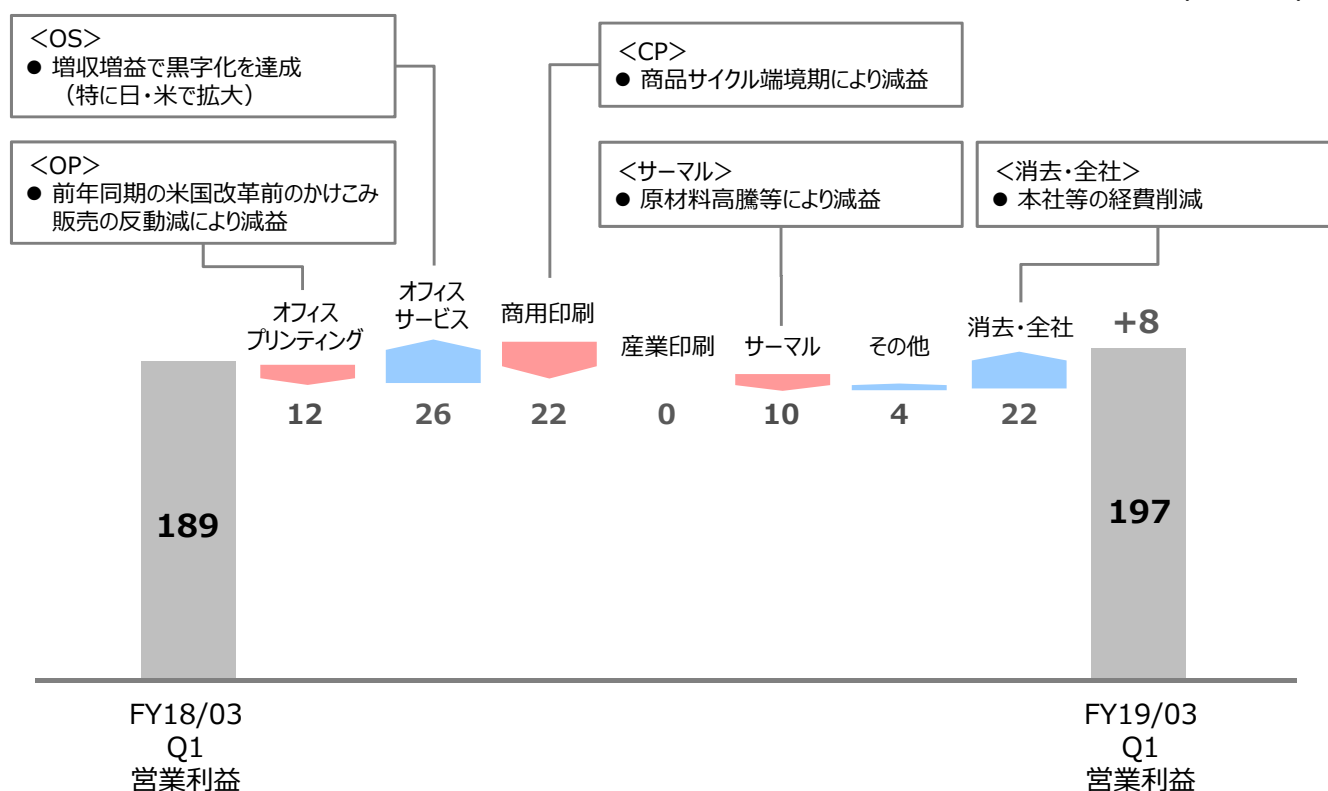
3

- 2019年3月期第1四半期決算の連結売上高は4,909億円と前年同期比ほぼ横ばいとなりました。
- 営業利益は197億円で前年同期比+4%増益となりました。
- 親会社の株主に帰属する当期利益は92億円となりましたが、リコーロジスティクス株式売却予定に伴い、繰延税金負債を計上した影響を除くと、実質的には約20%増益となります。
- ファイナンス事業の影響を除いたフリーキャッシュフローは763億円と前年同期から374億円増加しています。

# 2019年3月期 第1四半期決算 <セグメント別営業利益>

**RICOH**  
imagine. change.

(単位:億円)



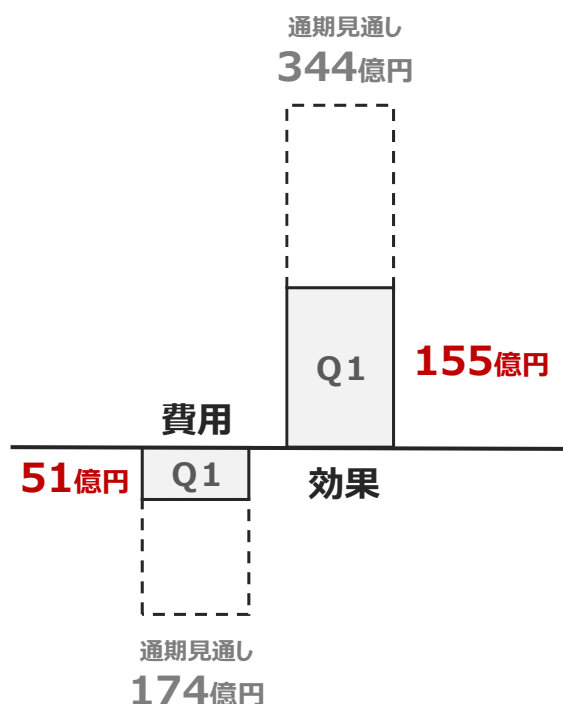
July 27, 2018

(C)2018 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

4

- 前年同期の事業セグメント別の営業利益増減となります。  
(従来の要因別営業利益増減は参考資料P19に掲載)
- オフィスプリンティングは前年同期に、米国販売改革前に、セールスが駆け込み販売を行ったため、収益水準が高くなっています。そのため、当期では減収となっています。
- オフィスサービスは、増収増益で黒字化となりました。前年Q4から実質的に黒字に転じましたが、Q1は計画以上に伸びました。特に日本とアメリカで拡大しました。
- 商用印刷は、商品の端境期に当たり、新製品がほとんど寄与していません。そのため減収減益となっています。
- サーマルは、原材料の高騰によって減益となっています。
- 消去・全社は、本社経費を削減しており、増益となっています。
- 結果として、197億円の営業利益を計上することができました。

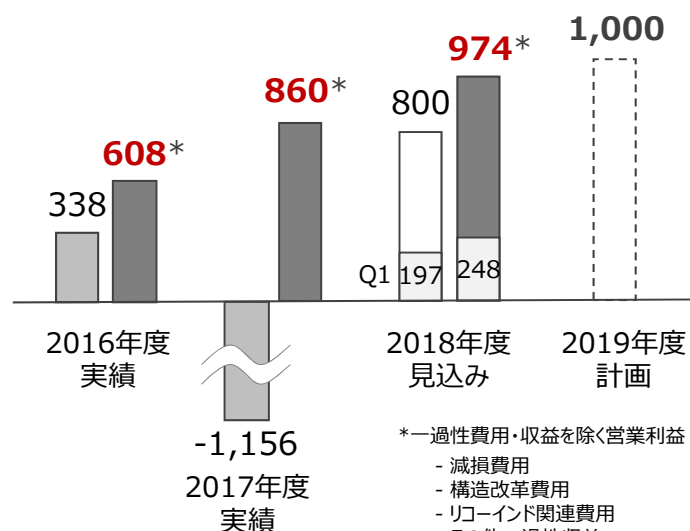
## 【費用と効果】



## 【人員数推移】（正社員のみ）



## 【稼ぐ力の向上】（営業利益） 単位：億円



July 27, 2018

(C)2018 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

5

- 構造改革費用は通期見通し174億円の計画に対して、51億円を計上しております。
- 一方、構造改革効果は通期見通し344億円の計画に対して、155億円となりました。  
前年度Q2以降と今年度Q1に創出した効果の合計となり、順調に構造改革効果が出ています。
- 人員数としては、3月末比で約1,200人減少しております。
- 前回「稼ぐ力」として示した特殊要因を除く営業利益も、18年度見通し974億円に対して、Q1で248億円となり、今の進捗でいくと、十分稼ぐ力がついてきたと言えます。

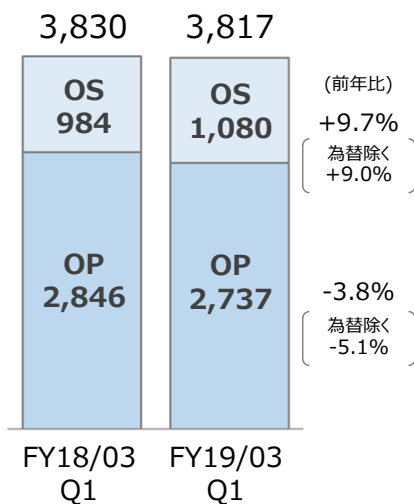


## オフィス

微減収ながら、オフィスサービス増益により  
オフィス全体で増益

売上高（億円）

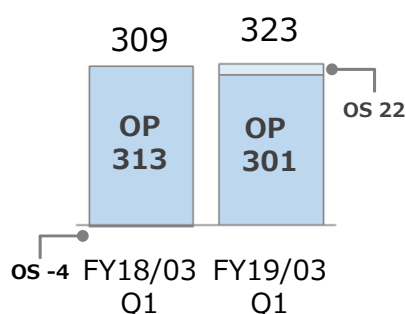
営業利益率



8.1% → 8.5%

OP	11.0%	11.0%
OS	-0.4%	2.0%

営業利益（億円）



\*営業利益は、全社・消去を除く

## オフィスプリンティング（OP）

- ・前年MIF売却益、構造改革費用を除くと増益
- ・前年度Q1米国改革前のかけこみと、商談選別による減益を構造改革効果でカバー

OP（単位：億円）	17Q1	18Q1	増減
営業利益	313	301	△12
構造改革費用	47	47	+0
MIF売却益	62		△62
特殊要因除く営業利益	298	348	+50

前年比(為替除く)	ハード	ノンハード
MFP	-11%	-3%
プリンタ	-6%	-2%
MFP+プリンタ 計	-11%	-3%

台数前年比		
MFP	-5%	A3:-8% A4:+2%
プリンタ	-17%	

## オフィスサービス（OS）

- ・国内：業種業務モデルが牽引し好調（2桁成長）
- ・米州：ドキュメント関連サービスの伸長等、好調に推移し増益

July 27, 2018

(C)2018 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

6

- オフィス事業につきましては、微減収ながらオフィスサービスの増益により、オフィス全体で14億円の増益となっております。

### <オフィスプリンティング>

- 売上高は2,737億円となりました。
- 前年の収益にはMIF売却益62億円が含まれており、今年の構造改革費用の影響を除くと実質的に50億円の増益となります。
- 前年の米国改革前のかけこみ販売や今年度の不採算案件絞り込みによる減益を、構造改革も含めてカバーして、増益となっております。

### <オフィスサービス>

- 売上高は1,080億円となり、黒字となりました。
- 国内につきましては業種業務モデルの展開が大変好調で、2桁以上の増収となっております。
- 米州につきましても、ドキュメント関連のITのサービスが非常に好調で、こちらも増益となっており、国内と米州が牽引しています。

- **Q1は収益性改善に向けた体制・仕組み構築が完了。成果も出始めている  
⇒Q2以降の回復への準備が整った**

➤ **収益性を重視した販売体制・仕組みの構築**

- － 地域別業績管理体制の強化
- － 利益重視の評価制度・価格体系への変更
- － サービス事業の収益性改善
- － 北米SCM統合

➤ **販売拡大に向けた今後の取り組み**

- － 地域別顧客カバレッジの最適化
- － 顧客層別/業種別提案による付加価値販売の展開
- － ディーラーとの関係強化・取引拡大

- 課題である米国販売の再建状況について説明いたします。
- Q1は収益性改善に向けた体制・仕組み構築がほぼ完了しました。
- Q2に向けての回復準備が整った状態で、成果も少しずつ出始めております。
- 収益性を従事した販売体制、仕組みの構築をやっており、例えば、地域別業績管理体制の強化として、地域やエリアをかなり細分化して細かく見ております。
- 評価制度も、利益評価を重視した評価制度に変えて、社員が利益を意識した体制に変わってきております。
- サービス事業に関しても、サービス利益の可視化を行い、原価低減を進めました。またお客さまに対しての付加価値提供による全体的な売価アップなどもあり、収益面でもプラスとなっております。
- SCMでは、倉庫等の統合を行い、収益面でも改善ができてきています。
- さらに今後の拡大のために、地域別の顧客カバレッジ、特にお客さまのセグメントを細分化しながら、特に収益が得られる中堅企業に戦力を強化して、MIFマネジメントも目標や実施項目、体制、役割といったところを規定して動き始めております。
- 付加価値モデルでは特にITについて、お客さまに価値を認めていただいて利益をいただけるモデルを設定して展開し始めております。また新規のディーラー開拓なども取り組み始めています。
- 米国については、体制、仕組みができて、成果が出始めています。



## プリンティング

売上横ばいながら減益

## 商用印刷 (CP)

- ・製品端境期のハード販売減少により、減収・減益
- ・新製品のパイプラインは着実に増加 (Q2以降で確実な刈り取りを図る)

前年比(為替除く)	ハード	ノンハード
CP	-21%	+0%

## 産業印刷 (IP)

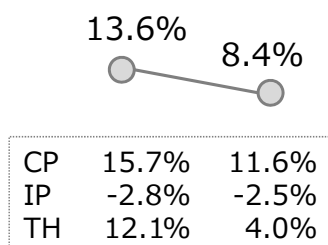
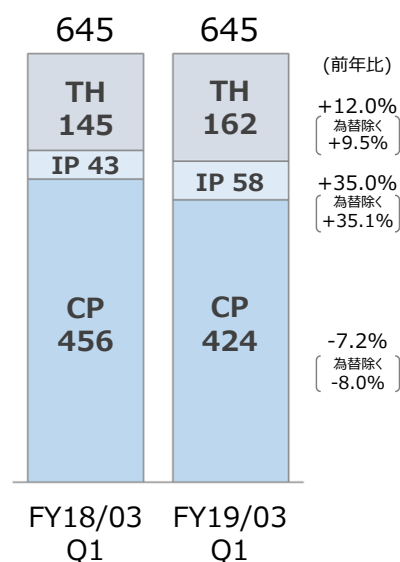
- ・IJヘッドが引き続き好調に拡大し増収
- ・開発経費増により減益

## サーマル (TH)

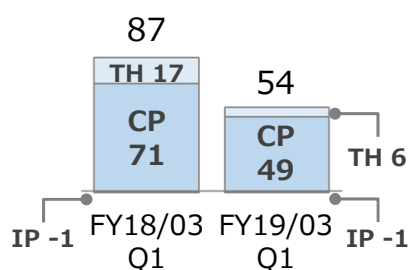
- ・国内外ともに売上が堅調に伸長
- ・原材料高騰等の影響があり減益

売上高 (億円)

営業利益率



営業利益 (億円)



\* 営業利益は、全社・消去を除く

July 27, 2018

(C)2018 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

8

- プリンティングは、売上高横ばいながら、減益となりました。減益要因は、商用印刷とサーマルとなります。

### <商用印刷>

- 売上高は424億円となりました。
- 製品端境期にあたり、新製品がほとんど寄与していない状況で減収減益となりました。新製品の評判は良く、パイプラインが好調に増加しており、Q2以降の寄与を期待しています。

### <産業印刷>

- 売上高は58億円となりました。
- IJヘッドが引き続き好調に拡大し、増収となりましたが、新製品開発経費などの増加により、営業利益は横ばいとなっています。

### <サーマル>

- 売上高は162億円となりました。
- サーマルペーパー・リボンが海外を中心に拡大し、増収となりましたが、原材料高騰の影響などにより、減益となっています。

## その他

売上微減ながら増益

売上高（億円）

営業利益率

### 産業プロダクツ（ID）

- ・半導体事業株式譲渡により減収
- ・車載・プロジェクトは堅調に推移
- \*車載：路面状態を検出可能な新型ステレオカメラを開発



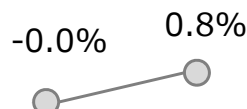
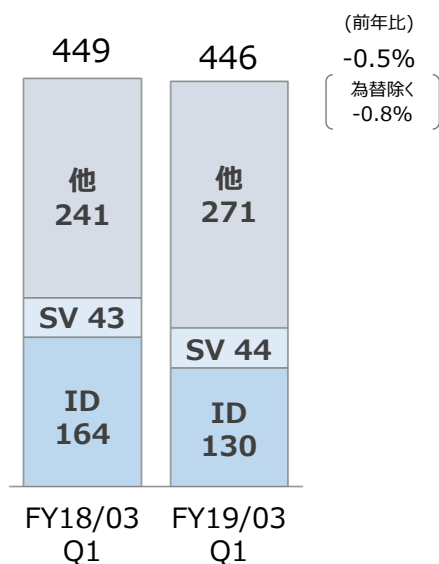
### SmartVision（SV）

- ・RICOH THETA、デジタルカメラとも堅調（売上前年並み）

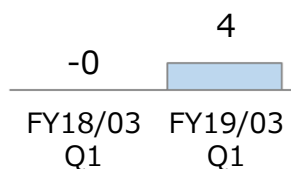


### その他

- ・ファイナンス/電力小売事業が増収



営業利益（億円）



\*営業利益は、全社・消去を除く

July 27, 2018

(C)2018 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

9

## <その他>

- 売上は微減収ながら増益となりました。
- 減収要因は半導体事業の株式譲渡の影響であり、実質的には増収増益となっています。

## <産業プロダクツ>

- 売上高は164億円となりました。
- 車載向け、プロジェクターなどのオプトモジュールが好調です。
- 車載用ステレオカメラは路面の状態まで検出可能な新製品を開発しました。

## <SmartVision>

- 売上高は44億円となりました。
- 360度カメラTHETA、デジタルカメラが堅調に推移しています。

## <その他>

- 売上高は271億円となりました。
- 日本のファイナンス事業が堅調に推移した他、電力小売事業が増収となりました。

# <連結財政状態計算書>

## 資産の部

(単位：億円)	2018年6月末	18/03末比 増減額
流動資産	<b>13,604</b>	+324
現金及び預金	<b>2,226</b>	+620
営業債権及びその他の債権	<b>5,728</b>	△169
その他の金融資産	<b>2,925</b>	+13
棚卸資産	<b>1,953</b>	+148
その他の投資	<b>0</b>	△559
その他の流動資産	<b>550</b>	+50
売却目的で保有する資産	<b>220</b>	+220
非流動資産	<b>13,108</b>	△21
有形固定資産	<b>2,400</b>	△99
のれん及び無形資産	<b>2,143</b>	△27
その他の金融資産	<b>6,896</b>	△0
その他の非流動資産	<b>1,668</b>	+105
資産合計	<b>26,713</b>	+302

(参考)期末日為替レート：  $US\$ 1 = ¥ 110.54$  ( +4.30)  
 $EURO 1 = ¥ 127.91$  ( - 2.61)

## 負債及び資本合計の部

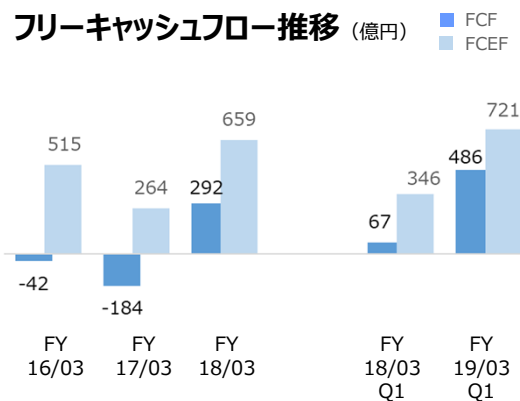
(単位：億円)	2018年6月末	18/03末比 増減額
流動負債	<b>8,468</b>	+583
社債及び借入金	<b>2,726</b>	+494
営業債務及びその他の債務	<b>2,887</b>	△119
その他の流動負債	<b>2,713</b>	+67
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	<b>141</b>	+141
非流動負債	<b>8,279</b>	△357
社債及び借入金	<b>6,288</b>	△298
退職給付に係る負債	<b>1,024</b>	△25
その他の非流動負債	<b>966</b>	△33
負債合計	<b>16,748</b>	+225
親会社の所有者に帰属する持分合計	<b>9,160</b>	+64
非支配持分	<b>804</b>	+12
資本合計	<b>9,965</b>	+77
負債及び資本合計	<b>26,713</b>	+302
有利子負債合計	<b>9,014</b>	+195

- コカ・コーラボトラーズジャパン株式売却に伴い、その他の投資559億円が現預金に移動しています。
- 棚卸資産が148億円増加していますが、前年同期水準より抑制されています。
- 売却目的保有資産はリコーロジスティクス株式となります。  
なお、資産と負債の両建て計上しています。
- 有利子負債はファイナンス事業拡大に伴い増加しています。
- B/Sは、ほぼ想定通りに推移しました。

# <連結キャッシュフロー計算書>

(単位: 億円)	FY2018/03 Q1	FY2019/03 Q1
当期利益	122	109
減価償却費	266	256
[ 当期利益 + 減価償却費 ]	[ 388 ]	[ 366 ]
その他の営業活動	-338	-150
営業活動によるキャッシュフロー	50	215
有形固定資産の購入および売却	-14	-129
事業の買収	0	0
その他の投資活動	31	400
投資活動によるキャッシュフロー	17	271
有利子負債の純増減	149	197
支払配当金	-90	-54
その他の財務活動	-4	-5
財務活動によるキャッシュフロー	54	138
換算レートの変動に伴う影響額	15	11
現金及び現金同等物の純増減額	137	636
現金及び現金同等物期末残高	1,401	2,242
フリーキャッシュフロー (営業C/F + 投資C/F)	67	486
FCEF (Free cash flow excluding finance business)	346	721

フリーキャッシュフロー推移 (億円)



\* FCEF (Free Cash flow Excluding Finance business) : ファイナンス事業を除くフリーキャッシュフロー

- コカ・コーラボトラーズジャパン株式売却益などにより、フリーキャッシュフローは486億円となりました。
- ファイナンス事業を除いたフリーキャッシュフローであるFCEFは、721億円の収入となり、前年同期比で375億円の増加となりました。

外部  
環境

- 足元の世界経済は緩やかな回復継続ながら、貿易摩擦などにより若干の不透明感
- 事務機市場の需要環境、競争環境は厳しい
- ICT市場の堅調な拡大が継続

自社  
取り組み

- 基盤事業で収益性重視を徹底するとともに、成長領域の製品・サービスを拡販
- お客様層別/業種業務別モデル販売を地域ごとに最適化して展開
- Q2以降の米国回復、リコーインド状況の見極め



**通期見通しは当初通り（Q2で改めて検討）**

- 通期見通しの考え方です。

### <外部環境>

- 足元の世界経済は非常に緩やかな回復基調が続いておりますが、貿易摩擦などにより若干の不透明感があると見ています。
- 事務機市場の需要環境、競争環境は引き続き厳しいと認識しています。
- ただし、ICT市場の堅調な拡大は継続すると考えています。

### <自社の取り組み>

- 基盤事業では収益性重視を徹底しながら、成長領域のオフィスサービスで利益を創出していきたいと考えております。
- 加えて、お客様層別/業種業務別モデル販売を地域ごとに最適化して展開します。
- 一方で、Q2以降の米国回復状況、またリコーインドの処理状況が不明確であるため、通期見通しは今回修正いたしません。Q2の段階で改めて検討いたします。

## 2019年3月期 <主要指標>

2018.4.27  
決算説明会資料  
掲載

**RICOH**  
imagine. change.

	FY19/03 通期見通し	前年比	特殊要因除く 前年比
売上高	20,400億円	-1.1%	+0.8% (為替除く)
営業利益	800億円	-	+22% (前年特殊要因除く)
営業利益率	3.9%	-	+0.7pt (前年特殊要因除く)
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	470億円	-	+15% (前年特殊要因除く)
EPS	64.84円	-	
ROE	5%以上	-	
年間配当金	20円	+5円	
研究開発投資	1,100億円	△10億円	
設備投資 (有形固定資産)	830億円	+107億円	
減価償却費 (有形固定資産)	665億円	△19億円	
前提為替レート 1USドル	106.04円	△4.87円	
1ユーロ	130.04円	+0.37円	

July 27, 2018

(C)2018 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

13

- 通期見通しの指標は前回の期初見通しと同じです。
- 減収ながら、利益がV字回復となる見通しです。

## ➤ 収益力の強化

売上高原価率の低減

さらなる収益改善のための大きなポテンシャル

米国販売の再建

収益重視の仕組み・体制構築と施策展開

「社内デジタル革命」

RPAを活用した全員参加型の業務プロセス改革と外部展開

## ➤ 成長戦略の重点施策と主要KPI

**成長戦略 0**

徹底した売価マネジメントによる収益力向上

KPI

MFP販売単価

**成長戦略 1**

新機種投入による商用印刷MIF拡大  
産業印刷製品・システムの強化・拡大

新機種販売台数

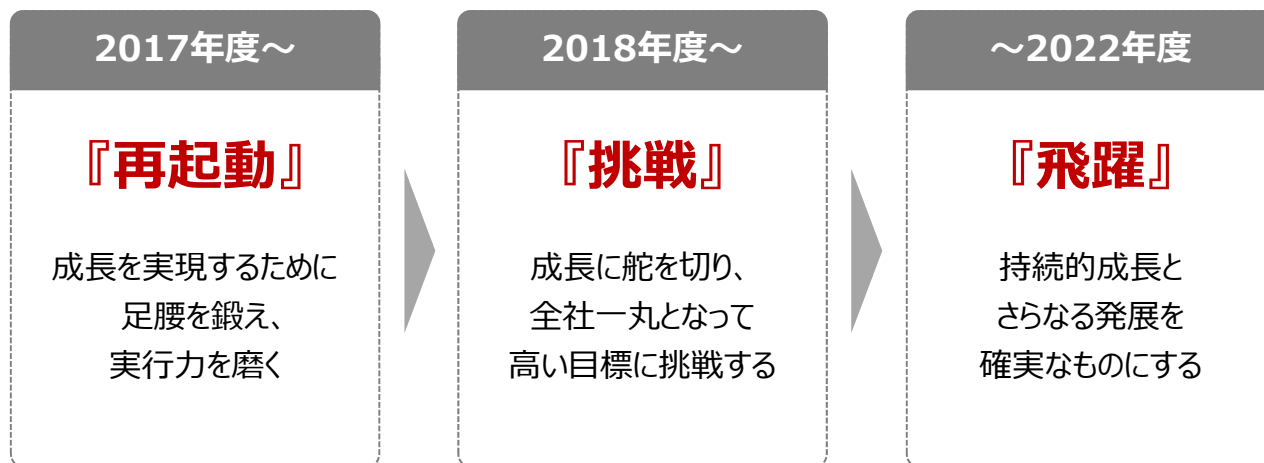
**成長戦略 2**

統合プラットフォームアプリケーションの充実

アプリ導入台数

- 18年度の主要施策を再掲します。
- 「収益力の強化」「成長戦略の重点施策展開」を柱にしっかりとこの主要施策を展開していきます。

## ➤ 「構造改革」から「成長」へ



- 2月の成長戦略公表時に示した成長に向けたステージを再掲します。
- 今年度は「挑戦」ということで、ここから成長に大きく舵を切って、しっかりと確実に施策を回すことによって、皆さま方のご期待に沿えるようにやっていきたいと思います。
- 以上で、Q1決算概要の説明を終わります。



# Appendix

July 27, 2018

(C)2018 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

## <主なQ&A>

Q：構造改革の効果は、1Qのペースで行くと、今期の2Qの段階で、300億円は超えると思われる。通期では見通しの344億円を上回るのではないかなと思うが。

A：1Qでは大きく見えるが、前年は3Qに大きく効果が増えており、前年比で効果は小さくなっていくため、最終的には見通しの通り344億円ぐらいに落ち着くと今のところは見ている。

Q：説明資料19ページの営業利益要因別増減の「販売・MIX」は今回129億円マイナスになっているが、前年の4Qからマイナス幅が縮小している。今期の2Q以降は、どのように考えればいいか。

A：主な要因は前年1Qの米国の駆け込み販売影響。他にもサマルでの原価上昇・事業の入り組み等。1Qは前年の反動でマイナスだが、2Q以降は販売体制改革効果により、通期では当初予定のマイナス200億円で収まると考えている。

Q：販売改革効果によって、今後、「販売・MIX」がプラスになっても良いのではと思うが、どのように考えているのか。

A：ハードは売価を上げる活動をする、ダイレクトに収益に貢献するが、ノンハードは5年間の集積になるため、ノンハードのマイナスは少しずつプラス方向に向かって上がっていく。そのため、「販売・MIX」がプラスとなるにはまだ時間が掛かると見ている。

Q：オフィスサービスの黒字基調は今後も継続性があるのか。

A：オフィスサービスに各極で力を入れ始めているので、継続性があると見ている。ICT市場は堅調な拡大の継続が見込まれるため、例えばIT環境や戦力やノウハウなどを見ながら、それぞれの国で得意なモデルを設定して、展開をしていく。

Q：国内のオフィスサービスでの2桁成長は、今、業種業務モデルでの売り上げが2桁伸びているということか。

A：国内では業種業務での展開により、商談案件数が増えた結果、トータルで売上が2桁伸びている。

Q：売価マネジメントについて、消耗品の売り方も変わってきているのか。収益性の良い顧客にシフトすることで、消耗品の下落に対する見方を変えているのか。

A：例えば国内の場合は、直近2年間ぐらい単価の高い中小の顧客に戦略上、動きをシフトしてきた。その結果、ノンハードの単価がじわりと上がり始めて、トータルでは落ち幅が減ってきている。現在グローバルで商談や顧客のセグメントを見直しているため、国内と同様に、採算の良い状態になって、落ち幅が少なくなってきた。

# ファイナンス事業を除外した財務情報 <試算>

## ■ 2019年3月期 第1四半期

※ファイナンス事業：国内、海外で展開するファイナンス事業

### ①損益計算書

(単位：億円)

	連結	製品・サービス事業	ファイナンス事業
売上高	4,907	4,734	372
営業利益	197	118	78

### ②財政状態計算書

	連結	製品・サービス事業	ファイナンス事業
資産	26,713	15,997	12,274
ファイナンス事業債権	9,806	0	9,806
負債	16,748	7,668	10,636
有利子負債	9,014	257	9,800
資本合計	9,965	8,328	1,638
ネット有利子負債	6,788	△2,987	9,775

### ③キャッシュフロー計算書

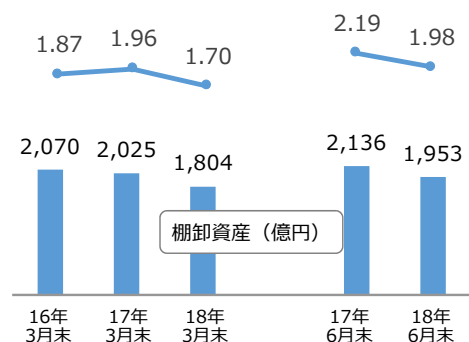
	連結	製品・サービス事業	ファイナンス事業
フリーキャッシュフロー	486	721	△234

### <経営指標>

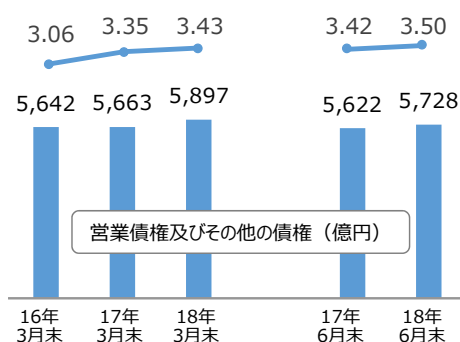
	連結	製品・サービス事業
親会社所有者帰属持分比率	34.3%	52.0%
有利子負債比率(DELシオ)	98.4%	3.1%
総資産回転率	0.18	0.30

参考情報です。一部項目に概算の情報が含まれます。

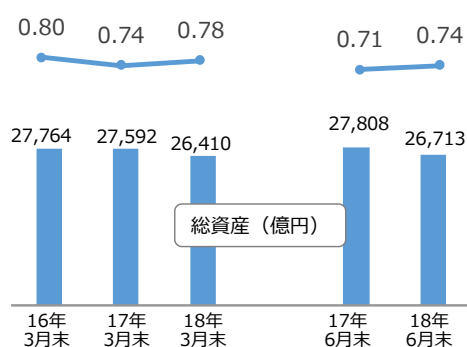
■ 棚卸資産回転期間 (月数)



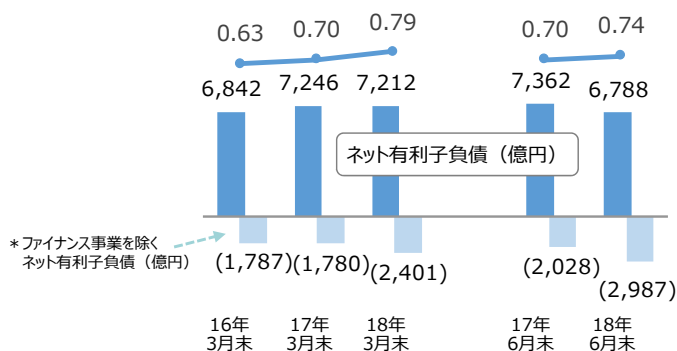
■ 営業債権及びその他の債権回転期間 (月数)



■ 総資産回転率 (一ヶ月平均回数)

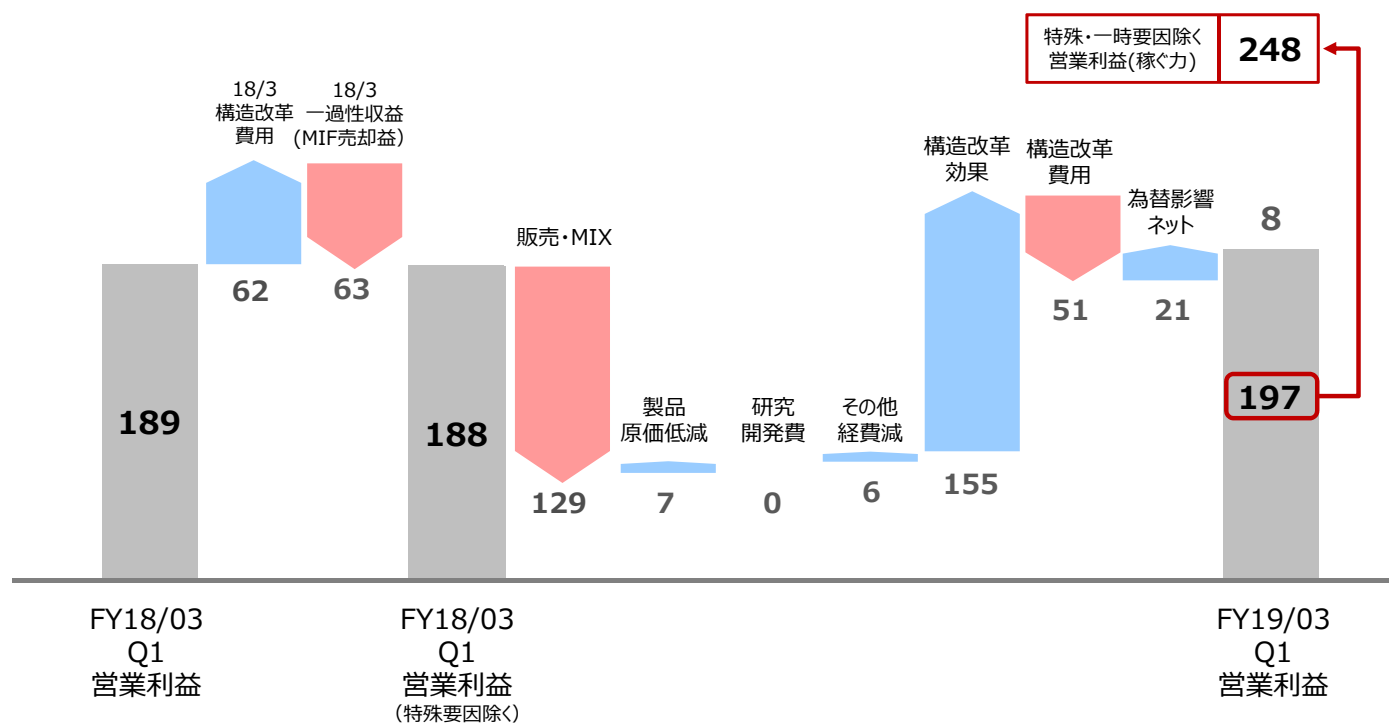


■ ネットD/Eレシオ (倍率)



# 2019年3月期 第1四半期決算 <要因別営業利益>

(単位：億円)



# 2019年3月期見通し <損益計算書>

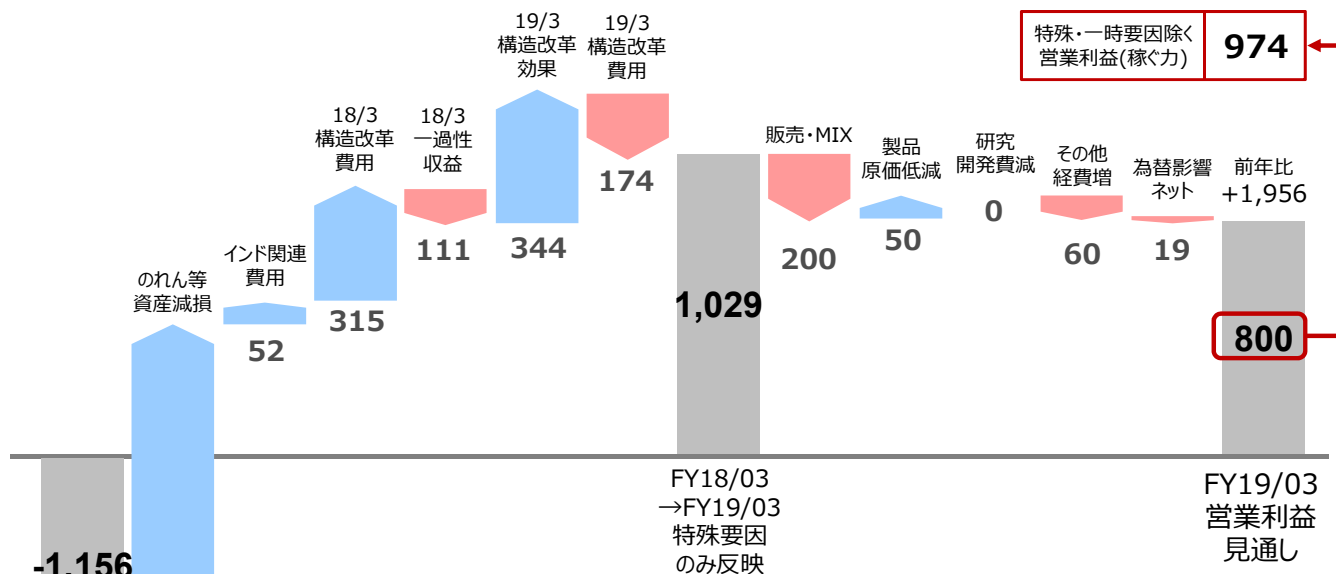
(単位：億円)			FY2019/03 見通し	前年比較		
				金額差	伸び率	為替影響 除く伸び率
売上高	(国内)	7,999	<b>8,070</b>	+70	+0.9%	+0.9%
	(海外)	12,634	<b>12,330</b>	-304	-2.4%	+0.2%
	合計	20,633	<b>20,400</b>	-233	-1.1%	+0.5%
売上総利益		7,910	<b>7,860</b>	-50	-0.6%	
(対売上高%)		38.3%	<b>38.5%</b>			
販売費 & 一般管理費		9,066	<b>7,060</b>	-2,006	-	
(対売上高%)		43.9%	<b>34.6%</b>			
営業利益		-1,156	<b>800</b>	+1,956	-	
(対売上高%)		-5.6%	<b>3.9%</b>			
税引前利益		-1,241	<b>770</b>	+2,011	-	
(対売上高%)		-6.0%	<b>3.8%</b>			
当期利益 (親会社の所有者に帰属)		-1,353	<b>470</b>	+1,823	-	
(対売上高%)		2.8%	<b>2.3%</b>			
一株当たり当期利益		-186.75	<b>64.84</b>	+251.59		
為替レート	円/1US\$	110.91	<b>106.04</b>	-4.87		
	円/1EURO	129.67	<b>130.04</b>	+0.37		

# 2019年3月期 <営業利益前年比増減>

2018.4.27  
決算説明会資料  
掲載

**RICOH**  
imagine. change.

(単位：億円)



(参考) 為替前提 (円)

	FY18/03 実績	FY19/03 見通し	前年差
USドル	110.91	106.04	- 4.87
ユーロ	129.67	130.04	+0.37

(参考) 為替感応度 (億円)

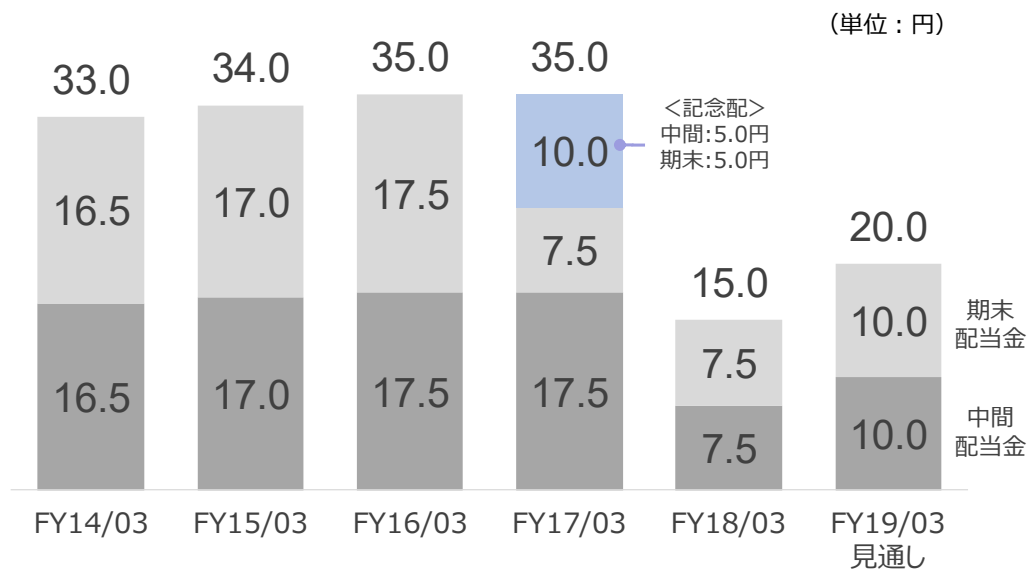
	売上	営業利益
USドル	53	3
ユーロ	36	13

1円の変動による年間影響額

## ■ 19次中計 配当方針（公表済）

当社は、企業体質の強化及び新たな事業展開のための内部留保の充実を図るとともに、株主の皆様への利益還元にあたっては、中期的な利益見通しおよび投資計画、キャッシュ・フロー、財務体質などを総合的に勘案したうえで、安定的な配当に努めます。

内部留保資金につきましては、基盤事業の更なる強化と中・長期的視野に立った成長事業分野への重点的な投資に活用してまいります。



## ◆従来セグメント

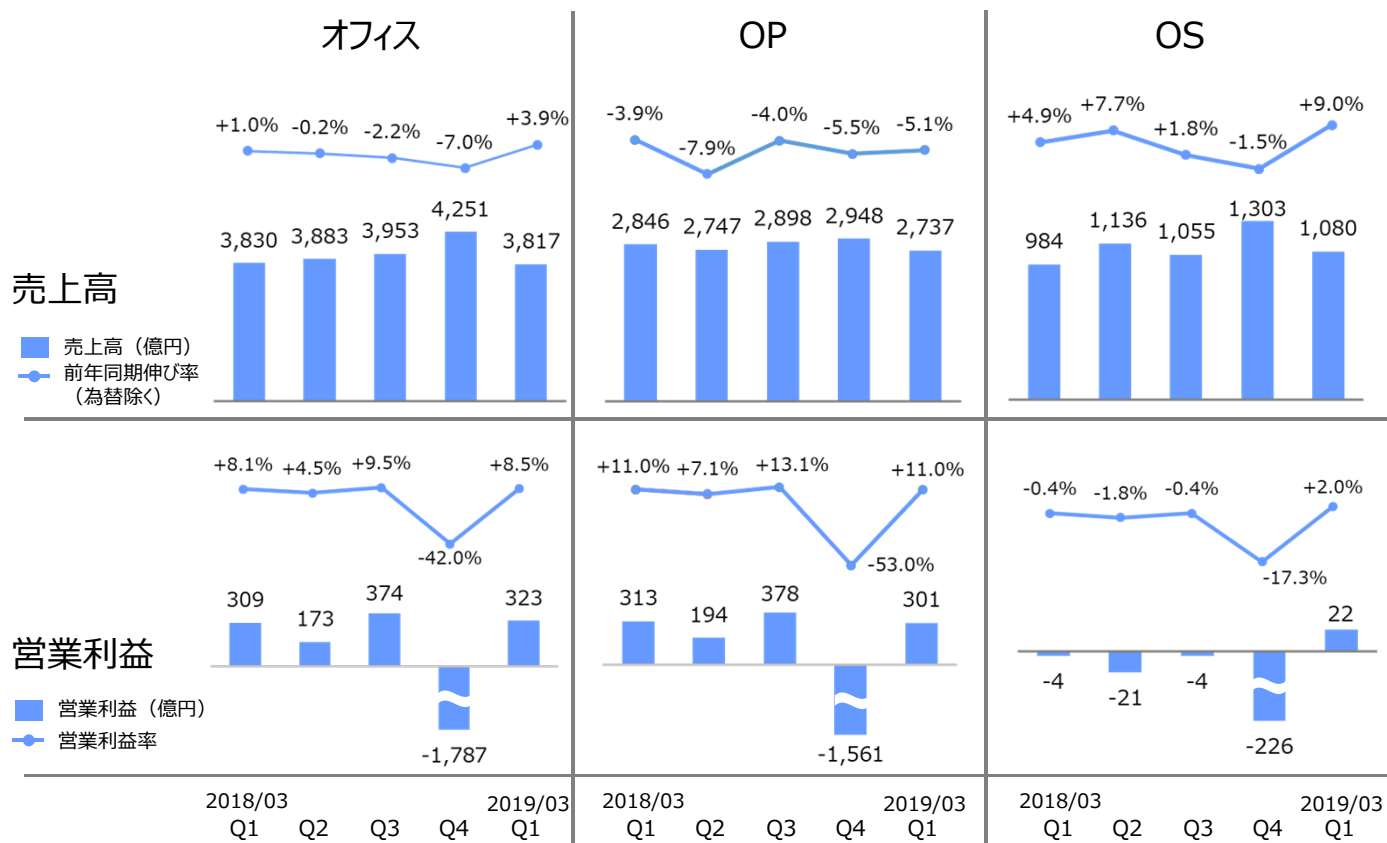
セグメント	分野	製品・サービス
画像 & ソリュー ション	オフィス イメージング	MFP（マルチファンクションプリンター）・複写機・プリンター・印刷機・FAX・スキャナ等機器、関連消耗品・サービス・サポート・ソフトウェア、ドキュメント関連サービス・ソリューション等
	ネットワーク システム ソリューション	パソコン・サーバー・ネットワーク関連機器、関連サービス・サポート・ソフトウェア等
	プロダクション プリンティング	カットシートPP（プロダクションプリンター）・連帳PP、広幅機等の機器、関連消耗品・サービス・サポート・ソフトウェア等
産業		サーマルメディア・光学機器・電装ユニット・半導体・インクジェットヘッド等
その他		デジタルカメラ等

## ◆新セグメント（2017年度～）

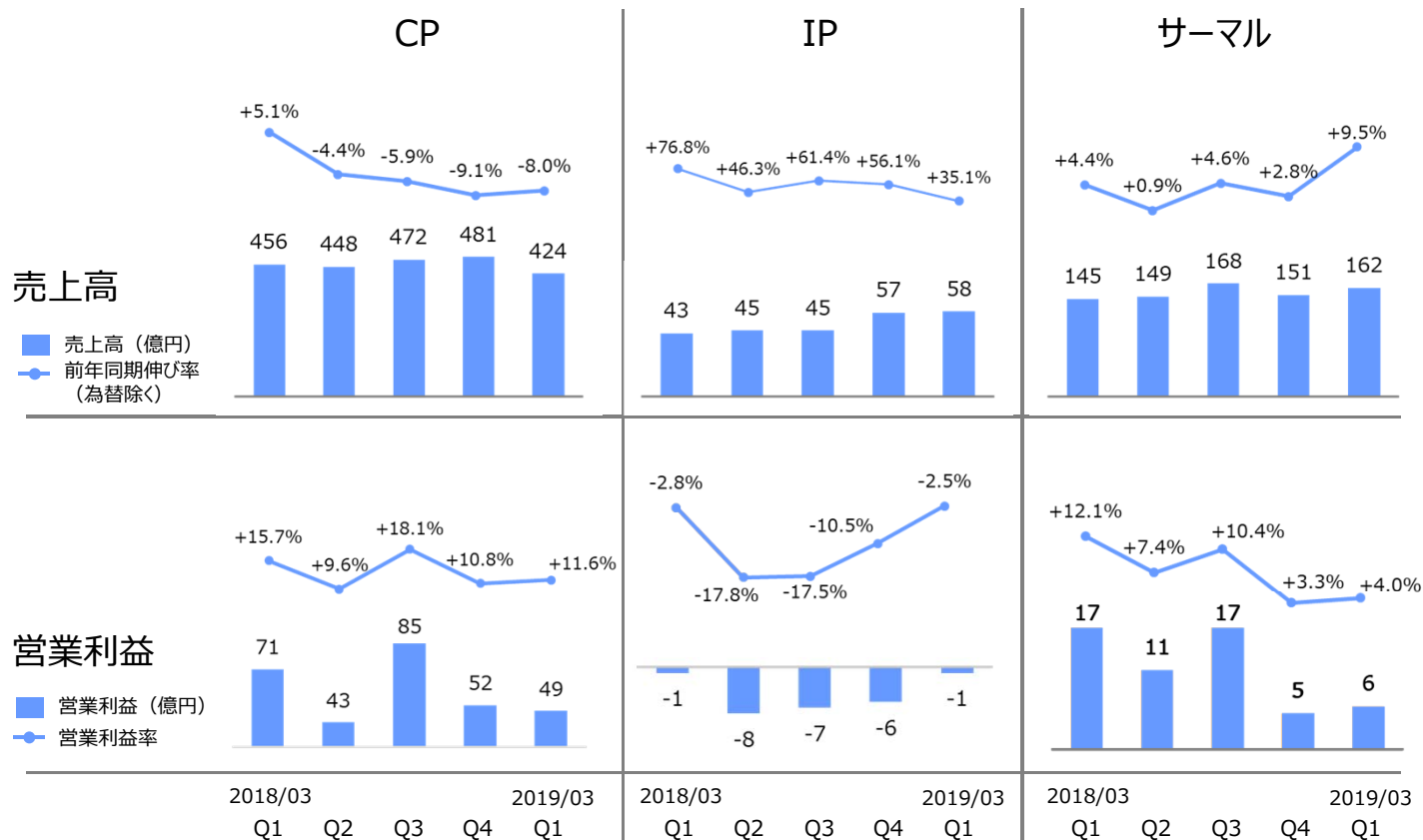
セグメント	事業領域	製品・サービス
オフィスプリンティング		MFP（マルチファンクションプリンター）・複写機・プリンター・印刷機・広幅機・FAX・スキャナ等機器、関連消耗品・サービス・サポート・ソフトウェア等
オフィスサービス		パソコン・サーバー・ネットワーク関連機器、関連サービス・サポート・ソフトウェア、ドキュメント関連サービス・ソリューション等
商用印刷		カットシートPP（プロダクションプリンター）・連帳PP等機器、関連消耗品・サービス・サポート・ソフトウェア等
産業印刷		インクジェットヘッド、作像システム、産業プリンタ等
サーマル		サーマルメディア等
その他	産業プロダクツ	産業用光学部品/モジュール、電装ユニット、精密機器部品等
	Smart Vision	デジタルカメラ等
	その他	3Dプリント、環境、ヘルスケア、金融サービス等



# 事業セグメント別 四半期推移（1）



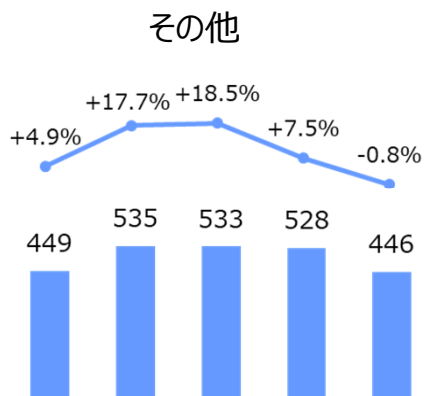
# 事業セグメント別 四半期推移（2）



# 事業セグメント別 四半期推移（3）

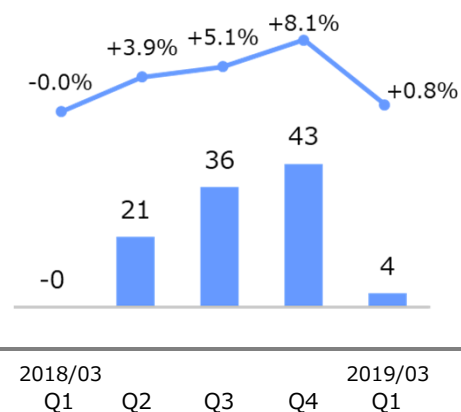
## 売上高

■ 売上高（億円）  
● 前年同期伸び率  
（為替除く）

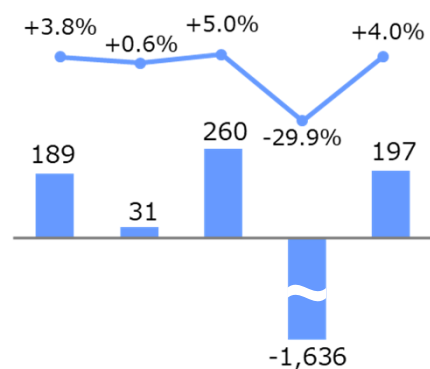
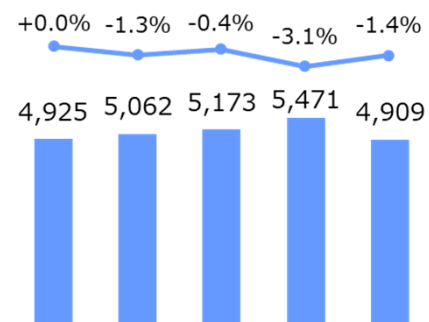


## 営業利益

■ 営業利益（億円）  
● 営業利益率



## 連結



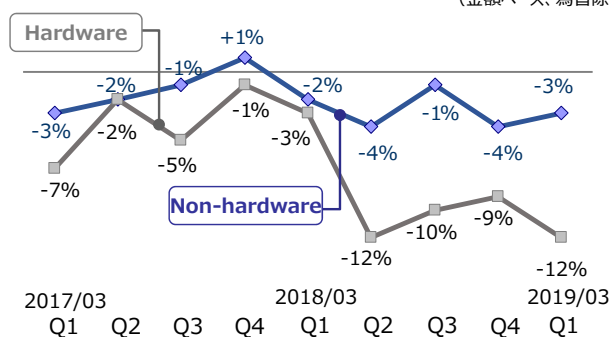
## MFP・プリンター・CP ノンハード比率 (為替影響含む金額ベース比率)

		FY2017/03				FY2018/03				FY2019/03	FY17/03 FY18/03	
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Total	Total
MFP	国内	68%	77%	70%	58%	69%	72%	71%	64%	71%	68%	69%
	海外	59%	55%	57%	55%	56%	55%	56%	53%	58%	56%	55%
	合計	61%	61%	60%	56%	60%	60%	60%	56%	62%	59%	59%
プリンター	国内	90%	88%	89%	84%	90%	89%	88%	84%	90%	88%	87%
	海外	67%	65%	68%	69%	68%	67%	66%	65%	68%	67%	67%
	合計	78%	77%	79%	77%	78%	77%	76%	75%	79%	78%	76%
CP *	国内	57%	56%	56%	46%	61%	66%	70%	62%	61%	53%	65%
	海外	59%	55%	57%	53%	59%	58%	62%	57%	66%	56%	59%
	合計	59%	55%	57%	52%	60%	59%	63%	58%	65%	55%	60%

\* カットシート機、連帳機のハードウェア売上高合計 (ソリューション売上等は含まず)

## MFP・プリンター・CP計 ハード・ノンハード売上高前年同期比伸び率推移

(金額ベース、為替除く)



**オフィスプリンティング（MFP・プリンター）、プリンティング（CP） 前年同期伸び率** \*金額伸び率

【ハードウェア】		FY2017/03				FY2018/03				FY2019/03	FY17/03	FY18/03
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Total	Total
MFP+プリンター計	国内	-3%	-1%	-4%	+4%	-1%	-5%	+1%	-1%	-9%	-0%	-1%
(オフィスプリンティング)	海外	-20%	-19%	-16%	-7%	-4%	-6%	-4%	-7%	-9%	-15%	-5%
	(為替除く)	-10%	-3%	-6%	-4%	-5%	-15%	-10%	-9%	-11%	-6%	-10%
	合計	-16%	-16%	-14%	-4%	-3%	-6%	-3%	-5%	-9%	-12%	-4%
	(為替除く)	-9%	-3%	-6%	-2%	-4%	-13%	-8%	-7%	-11%	-5%	-8%
MFP	国内	-3%	-3%	-4%	+4%	-1%	-3%	-1%	-2%	-10%	-1%	-2%
	海外	-20%	-19%	-16%	-7%	-4%	-8%	-5%	-8%	-10%	-16%	-6%
	(為替除く)	-11%	-4%	-6%	-4%	-6%	-17%	-12%	-10%	-12%	-6%	-11%
	合計	-17%	-17%	-14%	-4%	-4%	-7%	-5%	-7%	-10%	-13%	-6%
	(為替除く)	-9%	-4%	-6%	-2%	-5%	-14%	-10%	-8%	-11%	-5%	-9%
プリンター	国内	-4%	+9%	-5%	+4%	+2%	-12%	+14%	+3%	+1%	+2%	+2%
	海外	-12%	-15%	-18%	-8%	+3%	+11%	+14%	+11%	-6%	-13%	+10%
	(為替除く)	-1%	+2%	-8%	-5%	+2%	+1%	+6%	+9%	-7%	-3%	+5%
	合計	-10%	-9%	-15%	-4%	+3%	+5%	+14%	+8%	-4%	-10%	+8%
	(為替除く)	-1%	+4%	-7%	-2%	+2%	-2%	+8%	+7%	-6%	-2%	+4%
CP *	国内	+12%	+26%	+31%	+28%	+43%	-8%	-27%	-30%	+7%	+25%	-12%
	海外	-8%	-16%	-15%	-2%	+6%	+3%	-10%	-17%	-23%	-10%	-6%
	(為替除く)	+3%	-0%	-5%	+2%	+4%	-6%	-16%	-18%	-24%	-0%	-10%
	合計	-6%	-12%	-10%	+2%	+9%	+2%	-12%	-19%	-20%	-6%	-6%
	(為替除く)	+4%	+2%	-1%	+6%	+7%	-7%	-17%	-19%	-21%	+3%	-10%

\* カットシート機、連帳機のハードウェア売上高合計の伸び率（ソリューション売上等は含まず）

## オフィスプリンティング（MFP・プリンター）、プリンティング（CP） 前年同期伸び率 \*金額伸び率

【ノンハード】		FY2017/03				FY2018/03				FY2019/03	FY17/03	FY18/03
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Total	Total
MFP + プリンター計 (オフィスプリンティング)	国内	-4%	-2%	+0%	-2%	-1%	-2%	-1%	-1%	-1%	-2%	-1%
	海外	-14%	-19%	-14%	-2%	-3%	+4%	+4%	-5%	-2%	-12%	-0%
	(為替除く)	-4%	-4%	-3%	+1%	-5%	-7%	-3%	-7%	-4%	-3%	-5%
	合計	-11%	-13%	-9%	-2%	-2%	+1%	+2%	-4%	-2%	-9%	-1%
	(為替除く)	-4%	-3%	-2%	+0%	-4%	-5%	-2%	-5%	-3%	-2%	-4%
MFP	国内	-4%	-4%	-3%	-3%	-2%	-3%	-2%	-3%	-1%	-3%	-2%
	海外	-13%	-18%	-14%	-2%	-6%	+1%	+3%	-6%	-2%	-12%	-2%
	(為替除く)	-3%	-2%	-4%	+1%	-7%	-10%	-4%	-7%	-4%	-2%	-7%
	合計	-10%	-14%	-11%	-2%	-4%	-1%	+2%	-5%	-2%	-9%	-2%
	(為替除く)	-3%	-3%	-4%	-0%	-6%	-7%	-3%	-6%	-3%	-3%	-6%
ﾌﾟﾘﾝﾀｰ	国内	-4%	+3%	+6%	+1%	+2%	-1%	+1%	+1%	+2%	+2%	+1%
	海外	-22%	-25%	-9%	-0%	+13%	+23%	+10%	-1%	-4%	-14%	+10%
	(為替除く)	-12%	-11%	+2%	+4%	+11%	+11%	+2%	-3%	-6%	-5%	+5%
	合計	-12%	-11%	-1%	+0%	+6%	+9%	+5%	+0%	-1%	-6%	+5%
	(為替除く)	-8%	-4%	+4%	+2%	+6%	+4%	+1%	-1%	-2%	-1%	+2%
CP *	国内	+3%	+7%	+7%	+3%	+14%	+11%	+12%	+11%	+6%	+5%	+12%
	海外	-2%	-11%	-3%	+7%	+8%	+12%	+11%	-0%	+1%	-2%	+7%
	(為替除く)	+9%	+6%	+8%	+11%	+6%	+1%	+4%	-1%	-1%	+9%	+3%
	合計	-2%	-9%	-2%	+7%	+8%	+12%	+11%	+1%	+1%	-1%	+8%
	(為替除く)	+8%	+6%	+8%	+10%	+7%	+2%	+5%	+0%	+0%	+8%	+4%

## MFP・プリンター カラー比率 \*ハードウェア出荷、金額ベース

		FY2017/03				FY2018/03				FY2019/03	FY17/03	FY18/03
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Total	Total
MFP	国内	91%	87%	90%	86%	89%	88%	89%	88%	88%	88%	88%
	海外	66%	63%	67%	69%	66%	66%	68%	68%	69%	66%	67%
	合計	72%	67%	72%	74%	71%	70%	72%	73%	73%	71%	72%
プリンター	国内	50%	50%	51%	53%	57%	50%	52%	53%	58%	51%	53%
	海外	35%	34%	31%	31%	30%	34%	34%	35%	37%	33%	33%
	合計	39%	38%	36%	39%	36%	38%	39%	41%	42%	38%	38%
CP	国内	50%	43%	54%	51%	81%	69%	72%	85%	81%	50%	78%
	海外	75%	73%	78%	76%	76%	73%	80%	75%	75%	76%	76%
	合計	72%	69%	74%	72%	77%	73%	80%	76%	76%	72%	76%

## 期末従業員数 \*各期末時点 (単位: 名)

		FY15/03	FY16/03	FY17/03	FY18/03	FY19/03
						Q1
日本		36,371	35,779	35,490	33,796	33,962
海外	米州	31,766	31,501	30,516	26,995	26,675
	欧州・中東・アフリカ	18,525	18,643	17,652	16,680	16,644
	中国	12,856	12,897	11,925	10,574	10,248
	アジア・パシフィック	10,433	10,541	10,030	9,833	9,169
	小計	73,580	73,582	70,123	64,082	62,736
合計		109,951	109,361	105,613	97,878	96,698

# オフィスMFP 主な新製品投入状況

FY15/03

FY16/03

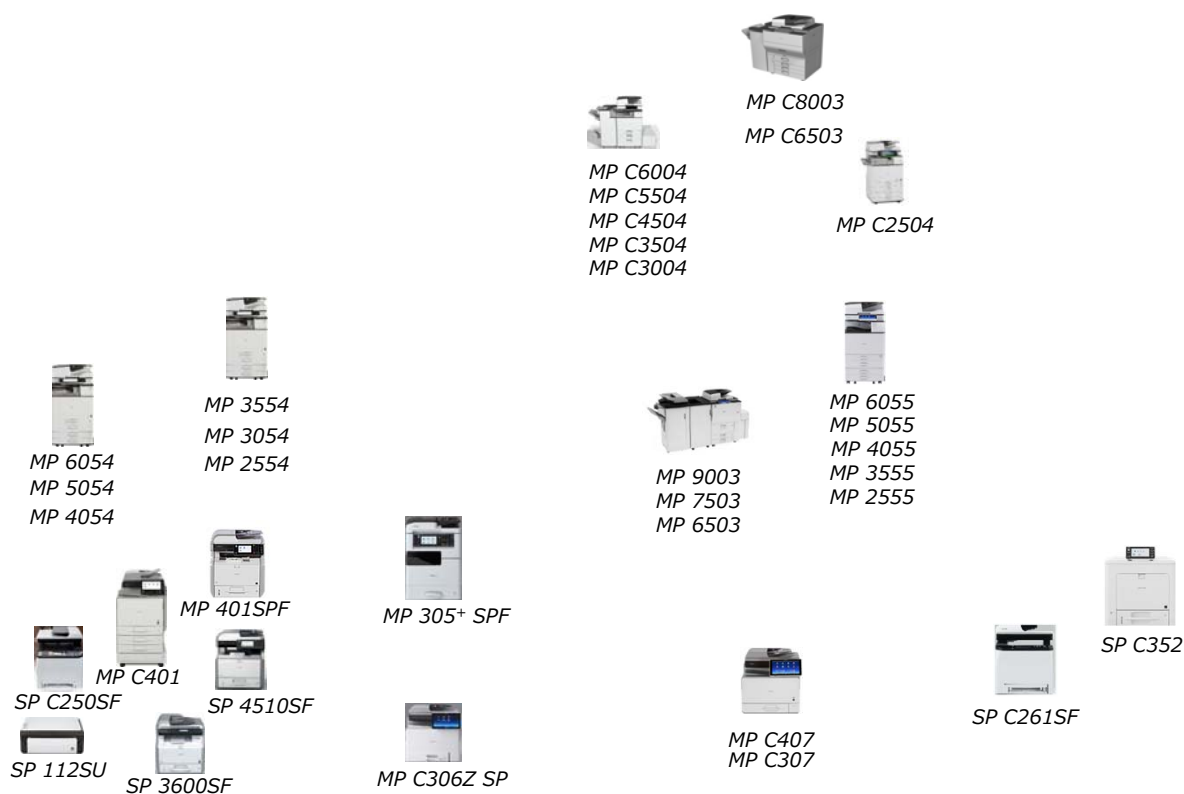
FY17/03

FY18/03 ~

Color  
MFP

















Mono  
MFP

A4  
MFP





# プロダクションプリンティング 主な新製品投入状況

Color Continuous Form		 InfoPrint5000	 InfoPrint5000VP	 Pro VC60000	 Pro VC70000 <b>NEW</b>
Color Cut Sheet	Heavy			 Pro C9110 Pro C9100	 Pro C9210 Pro C9200 <b>NEW</b>
	Mid	 Pro C900	 Pro C901	 Pro C7110S Pro C7100S	 Pro C7210S Pro C7200S
	Light	 Pro C720	 Pro C751 Pro C651	 Pro C5110S Pro C5100S	 Pro C5210S Pro C5200S
Color Wide Format Inkjet		 MP CW2200	 Pro L4000		
		~ FY14/03		FY15/03 - FY17/03	FY18/03 ~

**RICOH**  
imagine. change.

<http://jp.ricoh.com/IR/>